

令和 9（2027）年度

名古屋市立大学大学院薬学研究科

外国人研究生募集要項

1 募集人員

若干名

2 出願資格

外国人であって、次のいずれかに該当する者

- (1) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は令和9年3月修了見込みの者
- (2) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者又は令和9年3月修了見込みの者
- (3) 本学薬学研究科において、(1)と同等以上の学力があると認めた者

(注) 出願資格(3)により出願しようとする者は、出願資格予備審査を行うので、封筒の表に「薬学研究科外国人研究生予備審査書類在中」と朱書きし、下記の期間内に予備審査願等（5 出願書類等③参照）を次頁の出願受付場所に書留速達で郵送してください。（期限までに到着しなかった場合は受け付けしません。（期間内消印有効ではありませんから注意してください。）

(注) 国外から予備審査を申請する場合は、必ず日本国内在住の代理人が申請手続きを行ってください。この場合、本学からの通知も代理人あてに行います。（外国からの郵送による申請は受け付けませんので、注意してください。）

予備審査受付期間：令和8年11月11日（水）～ 令和8年11月13日（金）〔必着〕

3 予備審査結果通知

出願資格(3)により出願しようとする者の出願予備審査の結果は出願期間の2日前までに本人（国外の場合は代理人）あて郵便で通知します。受験を許可された者は、所定の期日までに出願手続きをしてください。（5 出願書類等の②③④⑤⑧の再提出は不要です。）上記期限までに通知が届かない場合は〔学生課薬学研究科入試担当〕（P.2）にお尋ねください。

4 出願期間

令和8年12月10日（木）～ 令和8年12月16日（水）〔必着〕

必要事項を記入した出願書類提出用封筒の表紙＜本学所定＞を角型2号の封筒（ご自身でご用意ください）に貼り付け、その封筒に出願書類等を入れ、書留速達で郵送してください。

期限までに到着しなかった場合は受け付けしません。（期間内消印有効ではありませんから注意してください。）

国外から出願する場合は、必ず日本国内在住の代理人が出願手続きを行ってください。 国外からの郵送による出願は受け付けしません。本学からのお知らせも代理人あてに行います。

予備審査申請及び出願にあたっては、事前に提出書類を持参のうえ薬学部事務課へ申し出ていただき、指導を受ける分野の責任者と面接し、受け入れの可能性及び研究テーマについて協議する必要があります。(予備審査時に面接を受けた場合は、受験を許可された後に再度面接を受ける必要はありません。)

＜出願受付場所、出願・入学等に関する照会先＞

＜事前協議・研究内容に関する照会先＞

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地 名古屋市立大学 学生課 薬学研究科大学院入試担当 電話 052-853-8020 (地下鉄 桜通線「桜山」下車3番出口よりすぐ)	〒467-8603 名古屋市瑞穂区田辺通3-1 名古屋市立大学 薬学部事務課 薬学研究科大学院入試担当 電話 052-836-3402 (地下鉄 桜通線「瑞穂区役所」下車1番出口から徒歩15分)
---	---

5 出願書類等

書 類 等	摘 要
① 入学願書 写真票 受験票 履歴事項	[本学所定用紙使用] ・写真は、正面、上半身、無帽、背景なし、カラー、縦4cm×横3cm、出願前3か月以内に撮影したものを貼り付けてください。 ・受信場所は、確実に連絡のとれるところを記入してください。 ・学歴は、初等教育（小学校相当）からすべて記入してください。 ・大学等における研究生等、日本語学校、専修学校等への在学歴及び職歴があれば記入してください。
② 在籍又は出身大学の卒業証明書 (卒業見込証明書)	・在籍又は出身大学の長が作成したものです。 ・大学院修了（見込）の者は、その修了（見込）証明書も大学の証明書等に合わせて提出してください。 ・コピーは不可。ただし、証明書の再発行が困難なものはコピーの提出を認めます。この場合原本は送らないでください。なお、コピーを提出した場合は、入学手続きの際に原本を確認します。
③ 在籍又は出身大学の卒業証明書 (卒業見込証明書) の日本語訳	・本学所定用紙以外に、任意の様式で作成し提出しても結構です。 ・原本をコピーしたものに書き込んでも結構です。 ・原本に直接書き込んだ場合は受け付けしません。
④ 在籍又は出身大学の成績証明書	・在籍又は出身大学の長が作成したものです。 ・大学院修了（見込）の者は、その成績証明書も大学の証明書等に合わせて提出してください。 ・コピーは不可。ただし、証明書の再発行が困難なものはコピーの提出を認めます。この場合原本は送らないでください。なお、コピーを提出した場合は、入学手続きの際に原本を確認します。
⑤ 在籍又は出身大学の成績証明書 の日本語訳	・本学所定用紙以外に、任意の様式で作成し、提出しても結構です。 ・原本をコピーしたものに書き込んでも結構です。 ・原本に直接書き込んだ場合は受け付けしません。
⑥ 研究計画書	[本学所定用紙使用]
⑦ 研究計画書の日本語訳	[本学所定用紙使用]
⑧ 日本語能力調査票	[本学所定用紙使用]

⑨	住 民 票	・在留資格が短期の者は、パスポートに押された日本の査証の写しを提出してください。 ・国外在住者が出願する場合は、パスポートの写しを提出してください。 ※個人番号（マイナンバー）が省略された住民票を取得してください。取得した住民票に個人番号が記載されている場合は、油性ペンなどを使用して塗りつぶし、完全に見えない状態で提出してください。
⑩	入 学 検 定 料 等 (10,210 円)	・入学検定料は、振込依頼書（本学所定のもの）を使用し、必要事項を記入のうえ、10,210 円（入学検定料 9,800 円+受験票等送付のための速達郵便料金 410 円）を添えて銀行などで振り込んでください。 ゆうちょ銀行（旧郵便局）では取り扱いしません。また、A T M等は使わず必ず窓口で振り込んでください。 ・振込手数料は、志願者本人の負担となります。 ・銀行などから受け取った「検定料納付証明書（B票）」を他の出願書類と一緒に提出してください。（「振込金（兼手数料）受領書（A票）」は、入学志願者が保管するものですから注意してください。 ※海外送金不可 ※既納の入学検定料は原則としてお返ししません。（後記 12(4) 参照）。
⑪	あて名用シール	〔本学所定用紙使用〕 ・返信先を明記してください。受験票等の送付及び合否を通知するときに使用しますので、確実に受領できる住所・氏名を記入してください。
⑫	希望指導教員 事前確認書	〔本学所定用紙使用〕 ・予め志望分野の教員と研究内容等について相談し、受け入れ分野責任者が署名したものを提出してください。
⑬	予備審査願等 (2 出願資格※注参照)	〔本学所定用紙使用〕 2 出願資格(3)により出願する者は、予備審査受付期間中に以下の書類を提出してください。 ・予備審査願、履歴書、志願理由書、研究歴調書、研究業績調書 ・5 出願書類等の②、③、④、⑤、⑧
⑭	出願書類提出用 封筒	・出願書類提出用封筒の表紙＜本学所定＞に必要事項を記入してください。 自身で用意した角型 2 号の封筒に表紙を貼り付け、出願書類を封入し、学生課宛て郵送してください。封筒の表紙はウェブサイトからダウンロードすることも可能です。 ＜本学ウェブサイト＞ https://www.nagoya-cu.ac.jp/admissions/graduate/phar/index.html

6 障害等を有する入学志願者との事前相談

障害等がある入学志願者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする方は、出願前までに必ず〔学生課 薬学研究科入試担当〕まで申し出てください。

7 入学者選抜方法

書類選考（あわせて面接を実施することがあります。その場合の面接時間等の詳細は受験票発送時にお知らせします。）

面接試験実施日程：令和 9 年 1 月 26 日（火）

8 入学許可者発表

面接試験を要しない場合：令和 9 年 1 月 12 日（火）

面接試験を課す場合：令和 9 年 2 月 2 日（火）

本人（国外の場合は代理人）あて郵便で通知します。

許可されなかった方にも、その旨郵便で通知します。

※合格者には入学手続期日や必要書類などの入学手続についての案内を送付しますので、必ず確認してください。

※合格発表日後1週間を過ぎても届かない場合は必ず〔学生課薬学研究科入試担当〕まで連絡してください。

9 入学手続

(1) 手続日

令和9年2月を予定していますが、具体的な日時は合格通知に併せてお知らせします。

(2) 手続方法

合格通知に併せて詳細をお知らせします。

(3) 入学手続時に必要な経費

ア	入学料	名古屋市住民等	69,600 円
		その他の者	99,600 円
イ	学生教育研究災害傷害保険料		1,000 円
ウ	学生教育研究賠償責任保険料		340 円

注1 入学料等は入学手続時まで金融機関で納付してください。既納の納付金は返還しません。

注2 名古屋市住民等とは、①入学者 又は ②配偶者若しくは1親等の親族が、入学の日において同日の前から引き続き1年以上の期間名古屋市内に住所を有していたことを住民票により証明できる者を指します。

注3 上記は令和8年4月入学者の金額です。令和9年度入学者については、改めて通知します。

10 授業料 年額 356,400 円（前期・後期分 各 178,200 円）

注1 授業料は、入学後、年2回（前期・後期）に分けて納めてください。（口座引落）

注2 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料が適用されます。

注3 上記は令和8年4月入学者の金額です。令和9年度入学者については、改めて通知します。
また必要な諸経費について別途徴収することがあります。

11 入国手続

入学日までに、正規の入国手続を済ませることができない場合は、入学許可を取り消すことがあります。入国許可の詳細については、名古屋外国人在留総合インフォメーションセンターへ照会してください。

12 注意事項

(1) 出願書類等が不備の場合は受理しません。

(2) 出願書類等に虚偽の記載をした場合は、入学後であっても入学を取り消すことがあります。

(3) 出願書類等は返還しません。

(4) 既納の入学検定料等は返還しません。

ただし、以下の場合は、納入された入学検定料から手数料を差し引いた入学検定料のみを返還しますので、本学ウェブサイトをご覧ください。

①二重で振り込みをした場合

②入学検定料等の振り込み後、出願書類を提出しなかった場合(出願が受理されなかった場合も含む)

(5) 受信場所を変更した場合は、直ちに〔学生課薬学研究科入試担当〕に連絡してください。

13 アドミッション・ポリシー

名古屋市立大学は、「全ての市民が誇りに思う・愛着の持てる大学をめざす」ことを大学の基本的理念として掲げ、大学院教育では、大学院生への研究指導は研究活動の活性化の一環であるとの認識に基づき、高度な専門性と学際的視点を備えた研究者及び職業人を育成することを目標としている。

本大学院では、これらの理念や目標のもとに、基本的な専門知識と技術を持ち、高度な専門性と国内外で活躍する意欲と適性を備えた、多様な能力や経歴を有する人材を広く求めている。

14 個人情報の取り扱い

個人情報については「名古屋市個人情報保護条例」に基づいて、次のとおり取り扱います。

(1) 個人情報の利用

ア 出願書類等に記載された氏名、住所その他の個人情報については、入学者選抜業務（出願登録処理、選抜実施、合格発表、入学手続等）を行うため使用します。

イ 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報を、今後の入学者選抜及び大学教育の改善のための調査研究や学術研究の資料として利用する場合があります。（調査研究の発表に際しては、個人が特定できない形で行います。）

ウ 入学者の個人情報については、教務関係（学籍管理、就学指導等）、学生支援関係（健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等）、授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

(2) 業者への委託

上記(1)の各業務での利用に当っては、個人情報の適切な取り扱いに関する契約を締結した上で、一部の業務を外部の事業者へ委託することがあります。

緊急時における大学からのお知らせについて

災害の発生時など、緊急時の連絡及び本募集要項の内容から変更する必要がある場合には、本学ウェブサイトにより周知しますので、受験前は特に注意して下さい。

また、受験者本人へ直接連絡する場合がありますので、出願書類には必ず連絡のとれる連絡先を書くようにしてください。

○本学ウェブサイト <https://www.nagoya-cu.ac.jp/>

敷地内全面禁煙について

本学は、敷地内禁煙を実施しており、学生の皆さんにも、この方針を遵守していただくとともに、大学周辺道路での禁煙にもご協力をいただいております。

大学院の概要

医薬化学講座

分 野	研 究 内 容
薬化学	1 分子設計に基づく医薬品候補化合物の合成と機能解析・評価 2 化学的手法に基づく生物活性物質の探索・機能解析法の開発 3 活性酸素種・一酸化窒素の生物有機化学 4 光化学と有機化学に基づく細胞制御物質の開発
生物有機化学	1 生物活性中分子（ペプチド、ペプチド核酸、ペプトイド）の創製研究 2 機能性ポリアミンの合成と応用 3 機能性超分子の開発研究 4 医薬リード化合物の合成と活性評価
薬品合成化学	1 特異な構造様式を持つ生物活性物質の全合成研究 2 生物活性天然物を基盤とする創薬研究 3 新規分子骨格構築法の開発 4 高選択的合成反応の開発
機能分子構造学	1 遷移金属触媒による多成分ドミノ反応の開発と薬品合成への応用 2 非経験的分子軌道法計算による遷移金属触媒反応の論理的研究

生命分子薬学講座

分 野	研 究 内 容
多階層生命機能解析学	1 オミクス解析を用いた生体分子ネットワークの解明 2 糖鎖の構造機能解析と創薬展開 3 糖タンパク質の生合成システムに関する研究 4 神経・免疫系における細胞分化と機能形成を制御する分子メカニズムの研究
動的生命デザイン学	1 合成生物学技術の開発を通じた細胞機能の操作と解明 2 合成生物学技術の生物個体内への応用による疾患の理解と新規治療技術への展開 3 脳神経系の活動ダイナミクス・細胞の力学応答の機構解明と操作技術開発 4 ソフトマター（コロイド・ゲル・高分子・ミセル）物理化学に基づくセンサー等の新規技術開発
生命分子構造学	1 多元的構造生物学アプローチによる生命分子機能の解明 2 疾患機構解明と創薬を目指した生命分子構造学 3 生命分子システムにおける動的秩序形成と高次機能発現の探査 4 生体分子の構造機能解析による生命の環境適応機構の探究
分子生物薬学	1 脳神経系特異的オルガネラ動態制御 2 アルツハイマー病や神経発達症の病態機構 3 iPS神経細胞を用いた創薬研究 4 mTORシグナル伝達機構
薬物送達学	1 脳腫瘍や各種がんへの標的化ドラッグ・デリバリー・システム（DDS）の開発 2 経肺投与ナノ・マイクロ粒子DDSの設計 3 難溶解性・難吸収性薬物の製剤設計 4 ナノ粒子キャリアーDDSの開発

医療分子機能薬学講座

分 野	研 究 内 容
生薬学	1 生薬、漢方薬、天然素材に関する医療薬学的研究 2 各種疾患への応用を指向した伝統薬物（漢方薬）の有用性評価と作用機序 3 植物・微生物を素材とする生物機能物質の探索とその創薬への応用 4 植物・微生物二次代謝機能の遺伝子制御と有用物質生産 5 ゲノム情報に基づく薬用資源植物の多様性の解析とその生薬評価への応用
衛生化学	1 サイトカインによる免疫制御機構 2 慢性疾患における分子センサーの役割とシグナル伝達機構の解析 3 腸内細菌を用いた新規DDSの安全性評価 4 結核菌及び他の細菌に対する免疫認識機構の解明と創薬への応用
遺伝情報学	1 mRNAの翻訳と分解の分子機構 2 RNA代謝による遺伝子発現制御 3 外来性ウイルスRNAを分解する抗ウイルス防御 4 癌、神経変性疾患等RNA代謝関連疾患の病態形成の分子機構 5 遺伝子治療をはじめとする臨床応用を目的としたmRNA医薬の開発
細胞分子薬効解析学	1 イオンチャネルの生理機能 2 循環器系難病におけるイオンチャネルの役割 3 平滑筋・心筋・神経・軟骨・免疫細胞の電気生理学及び薬理学 4 新薬開発研究
病態生化学	1 脳神経ネットワーク形成の分子機構 2 脳の高次機能（記憶、読字、感情など）発現の分子機構 3 脳神経系難病の原因解明、診断、予防、治療等に関する研究 4 脳における脂質分子の機能解明

医療薬学講座

分 野	研 究 内 容
薬物動態制御学	1 生体内物質（薬物・栄養素・脂質など）の体内動態に関わるトランスポーターの機能と制御機構 2 生体内物質（薬物・栄養素・脂質など）の体内動態におけるトランスポーターの役割 3 トランスポーターの生理学的及び病態生理学的役割 4 生体内物質（薬物・栄養素・脂質など）の体内動態の評価及び予測の方法論
病態解析学	1 グリアに注目した脳保護治療 2 腫瘍微小環境に注目したがん治療 3 神経芽細胞腫の自然退縮と悪性化の病態解明
細胞情報学	1 がんの生物学的特性の解明と新規分子標的薬の開発 2 TGF β シグナルとがんの悪性化メカニズムの解明 3 小胞体ストレスをはじめとする細胞性ストレスと生活習慣病発症機構の解明 4 代謝リプログラミングの理解と疾患発症予防への応用 5 医薬品・毒物代謝のストレスによる影響
神経薬理学	1 モデル動物を用いた睡眠覚醒制御の分子機構解析 2 睡眠障害とその治療薬の薬理学的研究 3 苦痛緩和を目指した神経薬理学的解析 4 代謝性疾患における高次脳機能障害と治療薬の探索 5 神経障害による感覚異常の機序解明と治療薬探索
レギュラトリーサイエンス	1 New Approach Methodologies (NAMs)を用いた薬物動態・毒性研究 2 胆汁成分の回収が可能な肝細胞培養手法の開発 3 薬物動態・代謝における薬物トランスポーターの役割解明 4 尿酸の栄養学 5 中枢作用薬の脳移行メカニズム解明
臨床薬学	1 ヒトiPS細胞の腸管細胞及び脳毛細血管内皮細胞への分化と創薬研究への応用 2 新規抗B型肝炎ウイルス治療薬の開発と新薬の代謝・毒性評価に関する研究 3 糖尿病による血管障害機序の解明と薬物療法の検討 4 患者に優しい製剤の開発 5 創傷治療用製剤の開発 6 難水溶性薬物の可溶化に関する研究 7 医薬品適正使用のための副作用発現危険因子および医療費・医療制度に関する研究 8 医薬品使用が生活の質（QOL）に及ぼす影響に関する研究 9 医薬品適正使用や健康増進への行動変容につながる支援・教育の確立に関する研究

連携大学院

分 野	研 究 内 容
腫瘍制御学 (愛知県がんセンター研究所)	1 がんの発症・悪性化における微小環境の役割に関する研究 2 転移の分子メカニズムの解明と予防・治療標的の探索 3 がん悪液質の病態生理解明と治療戦略の基盤構築 4 がんにおけるシグナル制御破綻機構の解明
加齢病態制御学 (国立長寿医療センター研究所)	1 アルツハイマー病の発症メカニズムの解明 2 アルツハイマー病の進行を遅らせる治療薬標的の探索 3 神経変性疾患の病態形成におけるグリア細胞機能の関与に関する研究 4 ショウジョウバエモデルを活用した老化研究
医薬品質保証学 (国立医薬品食品衛生研究所)	1 ジェネリック医薬品の生物学的同等性評価と品質確保に関する研究 2 医薬品の製剤および工程設計に関する研究 3 再生医療等製品の品質管理・品質保証・安全性確保に関する研究 4 ヒトES・iPS細胞などの多能性幹細胞に由来する臨床用細胞の品質・安全性評価法の開発
生命動態制御学 (自然科学研究機構)	1 構造生物学とその研究法 2 タンパク質の構造と機能連関 3 分子動力学シミュレーション手法の開発とタンパク質への応用 4 神経変性疾患を引き起こすタンパク質凝集体の形成メカニズムの理論的研究
医薬品医療機器審査科学 (医薬品医療機器総合機構)	1 医薬品の品質、有効性及び安全性の評価に関する研究 2 医療機器の品質、有効性及び安全性の評価に関する研究 3 再生医療等製品の品質、有効性及び安全性の評価に関する研究
がん治療学 (公益財団法人がん研究会)	1 がんの治療薬耐性メカニズムの理解と耐性克服法の探索に関する研究 2 がんにおける多様性の理解とそれを考慮した治療戦略の構築 3 ゲノム・エピゲノム情報の理解と新規治療標的の探索研究 4 がんの転移メカニズムの理解と転移制御薬の開発に関する研究
医薬基盤科学 (医薬基盤・健康・栄養研究所)	1 がん特異的機能分子の生体内制御による副作用の無いがん創薬研究 2 慢性感染症の機能的治癒を目指した免疫療法・新規RNAワクチンの開発研究 3 ゲノム解析および免疫ゲノム解析を通じた個別化がん免疫療法の開発研究

名古屋市立大学院薬学研究科（薬学部）所属教員一覧

(2026年9月現在)

講座	分 野	教 授	准教授	講 師	助 教
医薬化学	薬化学	中川 秀彦	川口 充康		太田 悠平
	生物有機化学	梅澤 直樹	久松 洋介		石田 良典
	薬品合成化学	中村 精一			大橋 栄作
	機能分子構造学		池田 慎一		
生命分子薬学	多階層生命機能解析学	矢木 宏和	田中 正彦		
	動的生命デザイン学	中村 秀樹	奥菌 透 豊玉 彰子		
	生命分子構造学	加藤 晃一 (兼任)	矢木 真穂		
	分子生物薬学	白根 道子	中津海 洋一	尾崎 智也	
	薬物送達学	尾関 哲也		小川 昂輝	
医療分子機能薬学	生薬学	牧野 利明	石内 勘一郎	寺坂 和祥	
	衛生化学	肥田 重明		伊藤 友香	小川 勇
	遺伝情報学	星野 真一	宇田川 剛		稲垣 佑都
	細胞分子薬効解析学	山村 壽男	鈴木 良明	近藤 るびい	
	病態生化学	服部 光治	河野 孝夫	高岸 麻紀	
医療薬学	薬物動態制御学	山梨 義英	保嶋 智也	山城 貴弘	
	病態解析学	青山 峰芳		青木 啓将	
	細胞情報学	井上 靖道		宮嶋 ちはる	
	神経薬理学	糸 和彦	富田 淳	鈴木 力憲	
	レギュラトリーサイエンス	荒川 大		黒澤 俊樹 堺 陽子	
	臨床薬学	舘 知也 岩尾 岳洋 河野 弥生	坡下 真大	堀 英生 齊藤 将之 石田 智滉	
附属研究所 創薬基盤科学研究所					
腫瘍制御学 (連携大学院) 県がんセンター研究所		青木 正博 客員教授 小根山 千歳 客員教授	藤下 晃章 客員准教授		
加齢病態制御学 (連携大学院) 国立長寿医療センター研究所		飯島 浩一 客員教授 関谷 倫子 客員教授			
医薬品質保証学 (連携大学院) 国立医薬品食品衛生研究所		加藤 くみ子 客員教授 安田 智 客員教授			
生命動態制御学 (連携大学院) 自然科学研究機構		村田 和義 客員教授	奥村 久士 客員准教授		
医薬品医療機器審査科学 (連携大学院) 医薬品医療機器総合機構		矢花 直幸 客員教授			
がん治療学 (連携大学院) 公益財団法人がん研究会		片山 量平 客員教授 丸山 玲緒 客員教授			
医薬基盤科学 (連携大学院) 医薬基盤・健康・栄養研究所		片桐 豊雅 客員教授 山本 拓也 客員教授 清谷 一馬 客員教授	野木森 拓人 客員准教授		